

●方法論(80 分)

「テキストマイニングを用いた研究の進め方 ―質問票調査のテキストマイニングを事例に―」

◎喜田昌樹 (大阪学院大学 経営学部 教授)

安藤史江 (南山大学 経営学部 教授)

報告を含むワークショップ形式

〔 概 要 〕

本セッションでは、『テキストマイニングを用いた研究の進め方』と題して、テキストマイニングの最近の動向などを含めた概論の報告とテキストマイニングを使用した共同研究の報告を行う。そして、そのあと、テキストマイニングに関連する方法論的議論と質問を受け、ワークショップ形式で議論を深めることにする。まず、喜田がテキストマイニングの基本的な説明の後、データサイエンスの中での位置づけ、及び研究事例などを報告する。本報告では、データサイエンスの領域（種類と段階）、1) VISUALIZATION（可視化）、2) ANALISYS（分析）、3) PREDICTIVE ANALISYS (MODELING)（＝予測的分析）に応じて、自己の研究例を挙げながら説明する。次に、テキストマイニングを用いた研究例として、南山大学安藤先生との共同研究（『現在の制度設計は、育児期の女性従業員の活躍を促しうるか？』）を取り上げ、安藤先生がその成果を報告する。本研究では出産・育児を契機にいったん組織を辞めた女性と、育児を経験しつつも同じ組織で就業継続している女性を対象に量・質的調査を実施し、テキストマイニングという手法を用いて、制度の意義を考察した。その結果、継続者は制度やそれを運用する上司の存在があったからこそ継続でき、制度が一定の効果を持つ可能性が確認された。ただし同時に、制度はあっても柔軟な働き方を可能にするものではない現状が、中断者を生むことも明らかになり、課題の多さも改めて浮かび上がった。なお、方法論的には質問票調査の自由筆記欄もしくはインタビュー調査のテキストマイニングの研究例である。

この二つの報告の後、ワークショップ形式では『分析用データを作成する』に注目しながら、方法論的な議論を発展させていくことにする。そこでは喜田の経験をもとにテキストマイニングを用いる際の3つの壁（ツールの壁、分析用データ作成の壁、分析する言葉の選択の壁）と対処方法などを明らかにする。

〔 参加者へのメッセージ 〕

10月20日(日) 9:30～10:50 開催(D会場:1-304)

テキストマイニングを今後使いようとしている研究者、現在テキストマイニングを用いているがうまく研究計画が進んでいない研究者の参考となるような方法論的議論を参加者とともに進めていければと思います。